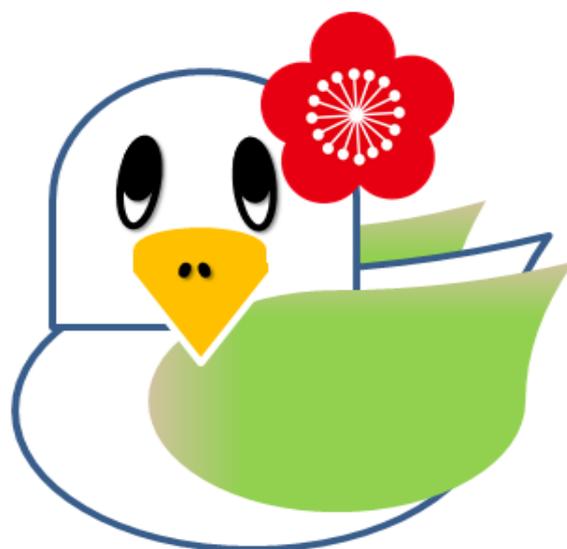


令和7年度 第2回

# 学校保健委員会



- 1 保健室の利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.1～4
- 2 病院受診となった怪我・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.5
- 3 感染症発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.6

東京都立青峰学園

## 2. 保健室の利用状況

### (1) 保健室来室者数

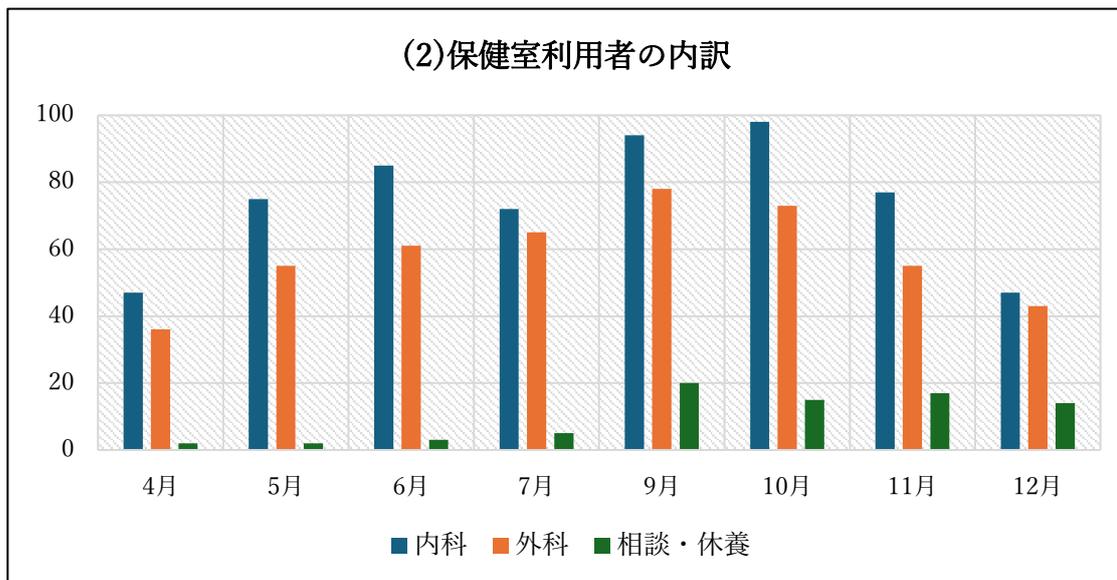
令和7年12月15日現在

4月 (計17日)	5月 (計20日)	6月 (計21日)	7月 (計14日)	9月 (計20日)	10月 (計21日)	11月 (計18日)	12月 (計11日)
85	132	149	142	192	186	149	104

### (2) 保健室利用者の内訳

令和7年12月15日現在

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	47	75	85	72	94	98	77	47	595
外科	36	55	61	65	78	73	55	43	466
相談・休養	2	2	3	5	20	15	17	14	78



○総来室者数は1,139人、1日平均約8人。安定した利用。時期によって増減がある。

○4月は利用が最も少なく、1日平均約5人。新学期でクラス替え直後、子どもたちはまだ緊張しており、体調不良や相談が表面化しにくい傾向。

○9月は利用者数が最多(192人)。夏休み明けで生活リズムの乱れや、疲れが影響している可能性。

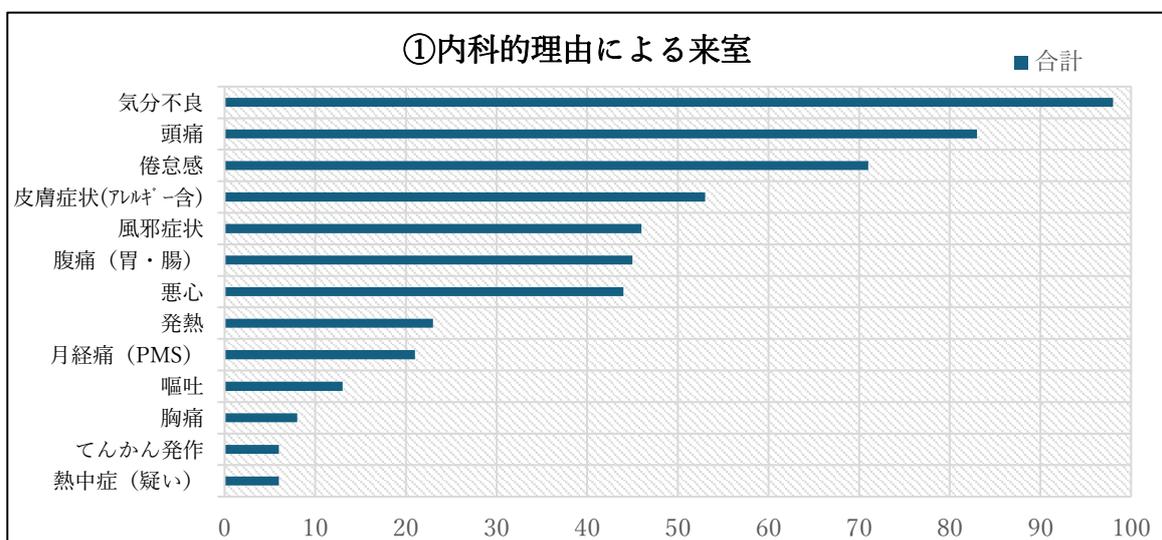
○後期は全体的に利用が多い。行事が多くあることや実習などが忙しくなることで、体調不良や心理的サポートの必要性が増す傾向がある。

### (3) 救急処置

令和7年12月15日現在

#### ①内科的理由による来室

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	合計
気分不良	5	8	22	16	20	14	11	2	98
頭痛	16	11	10	5	13	18	6	4	83
倦怠感	1	3	6	15	14	17	11	4	71
皮膚症状(アレルギー含)	1	1	—	9	15	15	8	4	53
風邪症状	3	6	2	6	6	10	10	3	46
腹痛(胃・腸)	3	12	4	3	6	6	7	4	45
悪心	2	5	3	7	5	8	8	6	44
発熱	—	1	2	3	2	1	5	9	23
月経痛(PMS)	1	5	3	2	6	1	1	2	21
嘔吐	2	2	3	1	2	—	1	2	13
胸痛	2	—	2	—	—	—	3	1	8
てんかん発作	—	2	—	—	1	—	2	1	6
熱中症(疑い)	—	—	6	—	—	—	—	—	6
その他	11	19	22	5	4	8	4	5	78
合計	47	75	85	72	94	98	77	47	595



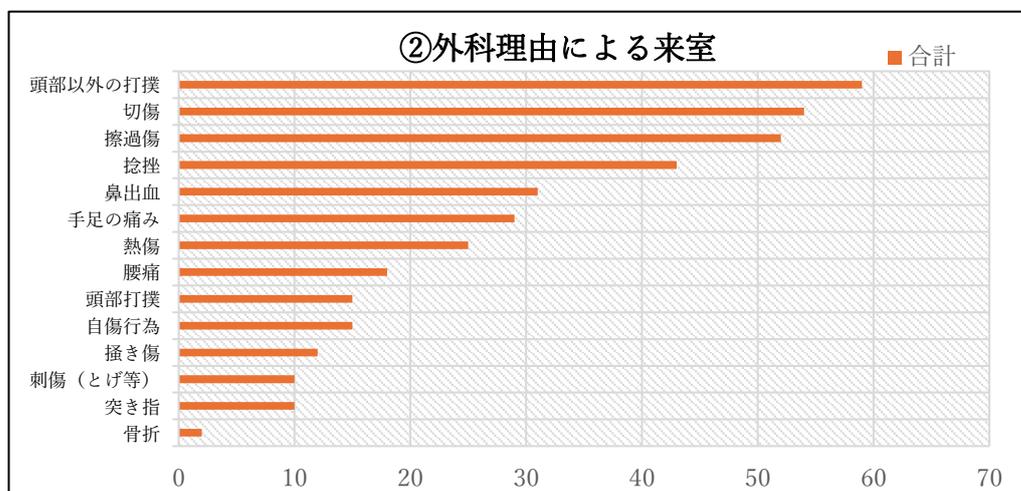
- 気分不良・頭痛・倦怠感が上位で約40%。精神的ストレスや疲労が背景にあることが多い。
- 梅雨～初夏(6～7月)は気分不良や熱中症疑いが増加。梅雨の気圧変化や暑さの影響がある。
- 秋(9～10月)は頭痛・倦怠感・皮膚症状が増加。行事や実習の疲れなどが関係している。
- 冬の入り(12月)は発熱が増加。校内での感染症対策と早期の帰宅判断に取り組んでいる。
- 季節ごとの体調管理の啓発、精神的ストレスによる不定愁訴への対応・学年との連携が課題である。

## ②外科的理由による来室

令和7年12月15日現在

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	合計
頭部以外の打撲	2	5	10	9	13	12	6	2	59
切傷	3	9	7	6	8	7	5	9	54
擦過傷	5	2	5	6	12	6	3	13	52
捻挫	3	6	5	3	4	7	13	2	43
鼻出血	4	6	7	3	4	5	2	—	31
手足の痛み	1	6	3	3	6	2	3	5	29
熱傷	1	3	4	6	4	3	2	2	25
腰痛	2	4	2	2	2	4	1	1	18
頭部打撲	1	—	—	4	3	4	2	1	15
自傷行為	2	—	2	3	3	3	2	—	15
掻き傷	—	1	1	4	2	2	1	1	12
刺傷（とげ等）	—	1	1	1	2	3	2	—	10
突き指	—	1	2	2	1	—	—	4	10
骨折	—	—	—	—	1	1	—	—	2
その他	12	11	12	13	13	14	13	3	91
合計	36	55	61	65	78	73	55	43	466

※「その他」は、虫刺されや原因不明の首の痛みなどの理由で来室した児童・生徒



- 打撲・切傷・擦過傷が多く、コース作業中の切り傷や調理による熱傷など軽微な怪我が中心。
- 頭部打撲や大きな怪我をした際は管理職や担任とともに患部や処置を複数の目で確認、保護者連絡・受診を確実に実施している。
- 大きな怪我をした際には、対応後に処置内容や教員の動きを記録として共有し、振り返りを通して「より良い対応」を検討。学校全体で安全管理と対応スキルの向上を図っている。
- 自傷行為も確認され、ストレスで壁を殴る・リストカットする生徒には、学年と連携し支援を行った。

## (4) 相談・休養

### ①相談・休養による来室状況

令和7年12月15日現在

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	合計
2	2	3	5	20	15	17	14	78



#### 主な相談内容

- 友人関係のこじれ
- 好意を寄せる相手との関係
- 体調についての悩み
- 教職員との関係
- 進路についての悩み

### ②傾向

- 行事や学習負荷が高まる時期に相談・休養が増える。
- 頭痛や腹痛などの体調不良を訴え、よく話を聞くと、実は悩みが隠れているケースも多い。
- 今年は就業技術科1年の利用が目立ち、新しい環境や人間関係の不安から頻回来室する生徒がいる。

### ③対応

- 相談時は時間を区切り、時間内で話を聞くようにしている。
- 学年とこまめに情報共有し、指導・支援方法の統一化と早期対応を図る。
- 気になる児童・生徒は療育相談につなぎ、医療機関へかけられるよう支援している。
- スクールカウンセラーとも連携して児童・生徒理解を深めている。

### ④課題

- 優しさと厳しさのバランスが難しく、学年と連携を密にしないと指導にズレが生まれることがある。
- 性に関する課題もあり、特に就業技術科の生徒については、指導方法に悩む場面がある。

※集計表の「－」は、該当する児童・生徒がいなかったこと表している。

## 2. 病院受診となった怪我

### (1) 現状

○病院を受診した怪我は13件。

○内訳は、就業技術科12件、肢体不自由教育部門1件。家庭で様子を見た後に受診するケースも多数ある。

### (2) 事例

個人情報のため省略

### (3) 総括

怪我の対応では、痛みの感覚が鈍い児童・生徒もいるため、本人の訴えと患部の状態を踏まえながら慎重に判断する必要がある。

就業技術科や準ずる教育課程の生徒については、本人の意思を尊重し、一緒に対応を考えることを大切にしている。安全管理の視点と本人の主体性を育てる視点のバランスが課題となる。

### 3. 学校感染症発生状況

#### (1) 令和7年度の学校感染症統計

(令和7年12月17日集計)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	3	14	19	36
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
麻疹 (はしか)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
風疹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
水痘 (水ぼうそう)	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
咽頭結膜熱 (プール熱)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
新型コロナウイルス感染症	—	1	—	—	2	2	1	1	1	8
髄膜炎菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
溶連菌	—	—	—	—	—	1	—	1	—	2

※集計表の「—」は、該当する児童・生徒がいなかったことを表している。

#### (2) 感染症について

- 年間を通じて継続的に新型コロナウイルス感染症の罹患者がいた。
- インフルエンザ流行が始まった9月末～10月初旬は罹患者が少なかったが、11月から増加傾向にある。11月は同一コース内での罹患者が多く、12月はフェスタ開催時に学年内での感染拡大が見られフェスタ明けに罹患者が一気に出了。しかし、休日中の発病者が多かったため週明けの欠席者が多く、フェスタでの罹患者からそれ以上の感染拡大は起こらなかった。フェスタでは、校内だけでなく地域などの外部からの出入りも多くあることから感染リスクが高まった。

#### (3) 感染症対策について

- 外活動終了後や給食前など石けんを使用した手洗いの声掛け
- 教室換気の徹底
- 各教室に加湿器の設置
- 忘れた人などが使用するマスクを各教室に配置
- 学校感染症で欠席している人数の掲示
- 積極的な水分補給の声掛け